

YMfg

2026 VOL.16

三都エリア イノベーションマガジン
from
北 山
九 島
州 口
県 県
LOCAL
ISSUE

この世界で。この街で。このじぶん。

まるごと 20 周年号 (features)

[cross talk] DeNA南場智子×YMFG椋梨敬介

3人の頭取に聞きたい3つのこと

[recommend] YMFG社員が潜入取材!! The NEXTパートナー
シャボン玉石けん | ひびき精機 | 広島東洋カープ

[special contents] これまで20年。これから20年 | このまちで生まれた新しい挑戦20

[column] 縁起もの20選 | YMFGの20年選手たち | グルメ社員の厳選20品

The next move
Beyond
20

お金の話は、 あとにしましょう。

あなたの話を 聞かせてください。
秘めたる 野望でも、
変身願望でも、 生きる 不安でも。
企業の、 お店の、 個人の、
いろんな あなたの いまのお話を。

そんなことを
銀行の人間に 言ってなんに なる？
何かに なります。 なりたいのです。
知恵も戦略も、 熱意もあり。

お金の話 だけしていたのは、 過去。
ちょっと大袈裟 ですが、 銀行の仕事とは
人の あらゆる営みに 関わって、
世界をよりよく 更新していく 役割へ。

山口フィナンシャルグループ、
20周年イヤー の姿勢です。

この世界で。
この街で。
このじぶん。

YMfg

山口銀行 もみじ銀行 北九州銀行

The next move
Beyond
20

YMFGが思い描く「地域の豊かな未来」を共有するために、この街に存在する、あしたを託したい、あしたを照らしてほしい人や取り組みを紹介します。

記念号はすべて特別企画。
“20”にちなんでお届けします

The next move Beyond 20 CROSS TALK

P06

DeNA南場智子×YMFG棕梨敬介
新しい価値観で、新しい世界へ

YMFG社員が潜入取材!! TheNEXT パートナー

〔北九州〕

北九州銀行×シャボン玉石けん
手のひらの石けんが、地球を守る

P12

〔山口〕

山口銀行×ひびき精機
削り屋集団に4つのクエストン!

P15

〔広島県〕

もみじ銀行×広島東洋カープ
カープが広島をひとつにする

P18

YMFGのこれまで20年。これから20年

P22

The next move Beyond 20 Q&A

P26

これからの話をしよう。3人の頭取に聞きたい3つのこと

このまちで生まれた新しい挑戦20

P29

column “20”がテーマのお祝い企画!

P11 縁起もの20選

P21 YMFGの20年選手たち

P25 グルメ社員の厳選20品

YMfg VOL.16

2026年9月発行

発行：山口フィナンシャルグループ
お問い合わせ窓口：広報・IR部
広報・IR部：沖永・稲本・竹内・松田
住所：山口県下関市竹崎町4-2-36
電話：083-223-5545

企画・制作：

ECD-TUGBOAT 企画－伊藤総研
編集－山崎若菜・山岸幸 (itskn)、後藤麻与
プロデューサー－天本季恵 (itskn)
エディトリアルデザイン－村田 鎌 (BROWN.DESIGN)
印刷－サンエムカラー



COVER

青木 柚 (あおき・ゆず)

袴 キララ (いのり・きらら)

高良健吾 (こうら・けんご)

(*features*)

20年とその先の景色を この一冊に乗せて

「同舟共命」― その舟の上にあるのは、喜びです。希望です。高揚です。未知です。もちろん、不安も、おそれも、葛藤だって。だからこそ、YMFGはお客さまと同じ舟に乗ります。地域の課題も、その先にある光も、ともに分かち合いたいから。20年のあいだに、私たちはいくつもの景色を見てきました。その一つひとつが、今のYMFGをつくっています。今回は、そんなさまざまな“20年”をこの記念号に詰め込みました。ぜひ、いろんな角度からのぞいてみてください。そしてページを閉じる頃には、あなたも同じ舟に乗っているかも。

COVERの3人が、地域から挑む姿を鮮明に描く
ブランドCMはYMFG公式サイト内にて公開中!
第5作テーマは「壁だと思ったら、扉だった。」



まるごと20周年号

節目、節目というけれど。この20周年は、これまでの道のりをかみしめるゴールではなく、前を向くためのスタート。
むしろ、ここから先に期待していただかなくては。
そんな私たちの思いに「The next move Beyond 20」という名前をつけました。
20年を超えて、地域を超えて、金融の枠を超えて。立ち止まっている暇はありません。
さあ、まだ見たことのない未来へ、ともに。



AIは“持たざる者” のための武器

あらゆる業界が
チャンスのお祭り!!

日本の常識に
世界が驚く!?

周年は進化の
“ブースター”

20周年特別対談パートナー

株式会社ディー・エヌ・エー 代表取締役社長 兼 CEO
南場 智子

1986年マッキンゼー・アンド・カンパニー入社。ハーバード・ビジネス・スクールにてMBA取得後、1996年マッキンゼー・アンド・カンパニーのパートナー（役員）に就任。1999年株式会社ディー・エヌ・エー（DeNA）を設立、代表取締役に就任。2019年デライト・ベンチャーズを創業、マネージングパートナーに就任。2021年より経団連副会長、スタートアップ委員長を務めた後、2026年6月にDeNA代表取締役社長兼CEOに復帰。

挑戦するより しないほうがリスク

くよくよするより
アクションを！

人に向き合う
覚悟はあるか？

株式会社山口フィナンシャルグループ
代表取締役社長CEO
棕梨 敬介

1995年山口銀行入行。山口銀行、北九州銀行の支店長を務めた後、地方創生コンサルティングを担う株式会社YMFG ZONEプランニングの代表取締役に就任。2019年に執行役員に就任し、同年に株式会社YMキャリア代表取締役に就任。その後、山口フィナンシャルグループ代表取締役社長グループCOOを経て2021年より現職。

日本の地方から世界を狙う、そんな挑戦が今まで以上に現実的になっている今。地方銀行や大企業もまた、世界へ漕ぎ出す舟に共に乗り込むパートナーとして新たなスタートを切り始めている。設立20周年を迎えたYMFGと、スタートアップとの協業に力を入れる株式会社ディー・エヌ・エー（DeNA）。両社CEOの対話から、未来への希望と可能性を考える。

新しい価値観で、
新しい世界へ

The next move Beyond 20

CROSS TALK

今、どんな希望が見えていますか？

周年は進化のブースター

棕梨——山口フィナンシャルグループ（YMF G）は今年20周年を迎えましたが、振り返ると本当に20年も経ったのかというくらいあっという間でした。南場さんは20周年のとき、どんな感想を持ちましたか？

南場——弊社は1999年創業なので20周年は少し前のことになりましたが、うちはいつもバタバタなので大変な記憶ばかりです。でも周年のような、キリ番の年は、注目も集めやすく発信の下駄を履けるタイミングです。もちろん発信は毎年しなきゃいけないし、19より20のほうが意味があるわけでもないけれど、進化への推進力を利かせやすいという意味では相当面白いことができるチャンスですよ。

棕梨——そうですね。私も20周年を機に未来を見つめなおし、さらに強いグループへ進化したと気持ちを新たにしています。ここ数年はますます外部環境の変化が激しくなったと感じますが、それに負わずに進んでいくと。

私たちの「当たり前」が、世界では「新しい！」

南場——変化といえば、本当にこの数年は



世の中のあらゆる価値観がガラッと変わっていますね。よく海外に行って知人たちと情報交換をするのですが、そうした変化の中で、実は日本って意外と人気なんです。棕梨——そうなんです、こんなところで日本への評価を感じますか？

南場——例えば最近では、これまでの欧米主義的なやり方やヒエラルキーが見直さ

れ、単純な資本主義ではない利他的な行動原理が目玉されるようになっています。そしてそれは、世界から見た日本のイメージそのままなんです。私たちが当たり前だと感じている譲り合いの精神や秩序立った行動が、海外の人たちにとっては相当レベルが高く見えるらしくて。日本人からすると、その評価には多少の幻想

AI活用に取り組んでいます、DeNAは「AIオンライン」を宣言され、かなりドラスティックな改革を実行されていますよね。

南場——数年前から全社的なAIネイティブ化を進め、この1年ほどでプログラマー

たちはほとんどコードを書かなくなりました。それくらい、スピードも量もAIはパワフルなツール。でも、業務効率化の

文脈だけでAIの力を語るのはちよつとものたないというか。

棕梨——そうですね。私ももつと大きな暮らしや仕事の在り方さえも変えていくものだと思っています。

南場——おっしゃる通り、今はAIによって個々人の生活も、価値観も、それに伴う企業の戦略やオペレーションもすべて変わろうとしています。

ンスになるかといえば、スタートアップです。これまで大企業が築いてきた従来型のやり方を、AIネイティブのスタートアップが出し抜く可能性が出てくる。実際にある業界では、新規プレイヤーが創業直後に一十億円の投資を集めたというケースもあります。どの業界を見ても、今はチャンスのお祭り状態！

棕梨——そう聞くとますます、我々も挑戦を続けていかなければと思いますね。「座して死を待つ」ではないですが、組織がいくら大きくても、これからは何もしないことがリスクになる時代。挑

も含まれている気もしますが……。棕梨——なるほど。でもそうした利他的な新しい価値観は、私も若者たちから特に強く感じますね。最近YMF Gに入社したある社員は、長野出身で東京の有名私大を出たあと、「日本を元気にしたい、そのためには地方から変えなくては！」と縁もゆかりもない山口に就職したんです。貢献意欲の強い本人には当然の選択でしたが、親御さんからは「なんでそんな地方に」と苦笑されたようで（笑）。でも彼は今、戦略部門ですごく活躍しているんですよ。

「世界でここだけ」を地方の強みに

棕梨——南場さんはYMF G主催の地方創生サミット「Shimonoseki Add-venture Summit」にも登壇してくださいっています。南場さんから見て、地方が世界で勝負していくときの強みはどこにあると思いますか？

南場——私は経団連の仕事やスタートアップの発掘でよく地方へ視察に行きますが、必ず訪れるのは大学です。というのも、

戦することより、しないでいることのほうがよほどこわいです。

この時代だからこそ、人と向き合う覚悟を

南場——でも棕梨さん、一方で従来企業にしかないアドバンテージもあるんですよ。それは、顧客基盤。プロダクトやサービスはAIによって一晩でつくれたとしても、人間同士の絆や恩義はつくれません。特に地銀のように、顧客とのリレーションや信頼をしっかりと構築してきた企業というのは、やはり強いです。

棕梨——そう言っていたらいてありがたうございます。私たちも、今後新たなスタートを切っていく中で、人と人との繋がりは決して粗末にできないという強い思いを持っています。それを象徴するのが、中期経営計画でも掲げている「同舟共命」というキーワードなんです。

南場——すばらしい言葉ですね。棕梨——地域やお客さまと事業リスクを共有し、まさに、同じ舟に乗ってビジネスモデルの確立を進めていくという意味が込められています。そこにあるのはお客様としっかりと向き合う覚悟です。AIを業務に組み込むのも、それによって人しかできない仕事に特化する時間を生み出すため。思いを持って、志を持って、お客様と話を。その行為の中でしか気づけないことが、たくさんありますから。

AIは挑戦者の追い風ツール

南場——日本は課題先進国と言われているけれど、特に地方には積年の課題がありますよね。ユニークな技術によってこれらの課題を解決することは、スタートアップにとって大きなチャンスになり得ます。そう考えると、地方は可能性にあふれていますね。

棕梨——これから新たな挑戦をしていくにあたって、AIをいかに使いこなしていくのかも無視できない観点だと考えています。YMF Gも地銀のなかではいち早く



地方にも、世界で戦える力がありますか？

ワクワクし続ける秘訣は何ですか？

南場 AI時代だからこそ、ますます大事になるのは人間らしさです。恩義や絆は、ある意味でとても日本的な価値観。そこを重んじてこそ勝てるビジネスを、これからつくっていききたいですね。

未来を拓くのは、 対話と行動

椋梨 ところで、南場さんはインターネッットやAIなど常に新しいものに挑戦されていますが、その原動力は何ですか？

南場 私、面白がりなんです。1、2か月に1度はシリコンバレーに渡って、ホテルではなくシェアハウスに泊まっている人と話をしまくる。シャワー後の濡れた髪のまま情報交換したりね（笑）。対話を通じて得られる生の情報が、コンテンツとともに自分の中に一番ビビッドに響く。行くたびに新しい変化が起こっていて、それを目の当たりにしながら新しいことをあれこれ考えるのが純粋に好きなんです。椋梨さんもそうじゃないですか？

椋梨 全く同じですね。私もとにかく新しいものに興味を持ち、気になったら実際にそこへ行くようにしています。例えば「今はインドが熱い」と聞いても、人によってインドへの評価はバラバラ。でも実際に自分でそこへ行くと、聞いた話とはまた違う世界観が広がっていたりします。若い頃アメリカの金融ビジネスに興味を持った時も、上司に頼んで数か

未来を担う若い世代へ

おそれずに 世界を目指そう！

何もしないことがリスクになる今、裏を返せばチャンスだらけ。くよくよしても前を向き、世界を目指して挑戦を。

いろんな人と会う！話す！

新しい情報を面白がり、悩まずアクションを起こすことが、あなたの可能性を広げます。



月間アメリカの金融機関を見て回り、学ばせてもらいました。
南場 いい組織ですね。
椋梨 でも、そうやって外の世界に興味を持ちながらも、一番の思いはこの三都という地域から新しいビジネスを興すこと。これからの未来を担う若い人たちに、ぜひ視野を広く持って、地方から世

界を目指してほしいですね。
南場 迷うよりも行動。挑戦者への追い風が吹く今、どんどんアクションを起こしていきたいと思います！

縁起もの20選

めでたい！
愛でたい♡

次の20年にもつなごう、三都に息づく縁起の良いもの。
暮らしをそっと彩る、多幸感あふれる小さな縁起ものたちをご堪能あれ。

福を呼ぶ



山口 ふくまる御守

地元で「ふく」と呼ばれる河豚は、古くから招福の象徴となっています。ふくまるは全て手づくりで自分だけの「ふく」と出会えます。
〈亀山八幡宮〉
Instagram: @kameyamahachimangu

めでたい



福岡 鯛抱き童人形

江戸時代後期から続く素焼きの土人形。縁起の良い鯛を抱いた姿には、子どもの健やかな成長を願う親の祈りが込められています。
〈筑前津屋崎人形工房〉
Instagram: @tsuyazaki_ningyo



金と黒のお狐さまが
幸せを運ぶ

福岡 笑いきつねくじ

〈賢岡神社〉
Instagram: @kegojinja_official



福へふくを呼ぶ！
おみくじ付きだるま

山口 福猫だるまふく・福柴だるまふく

〈雑貨店 NOICHI〉
Instagram: @noichi_official



伝説の猫から生まれた
開運厄除の土人形

福岡 宮若追い出し猫 小・桜ちゃん

〈一般社団法人 TEAM みやわかじまん〉
宮若市本城 458-2



私物をだるままで
デコって、運氣UP！

広島 フレークシール だるま(16枚入)

〈墨梅屋〉
Instagram: @sumiumeya

日々を彩る



広島 HARENOHI SET

出産やお宮参り、お食い初めなど、人生の節目を祝う「ハレの日」に寄り添うギフトセット(名入れ杓子・箸置き・スプーン・皿)。
〈杓子の家〉
Instagram: @shakushi_no_ie_miyajima



金と黒のお狐さまが
幸せを運ぶ

福岡 笑いきつねくじ

〈賢岡神社〉
Instagram: @kegojinja_official



福へふくを呼ぶ！
おみくじ付きだるま

山口 福猫だるまふく・福柴だるまふく

〈雑貨店 NOICHI〉
Instagram: @noichi_official



伝説の猫から生まれた
開運厄除の土人形

福岡 宮若追い出し猫 小・桜ちゃん

〈一般社団法人 TEAM みやわかじまん〉
宮若市本城 458-2



私物をだるままで
デコって、運氣UP！

広島 フレークシール だるま(16枚入)

〈墨梅屋〉
Instagram: @sumiumeya

粉・固形石けんは、天然油脂とアルカリを炊き込み、完成まで約1週間。出来具合を確認するために、職人が舌で味を確認する。妥協のない商品づくりを徹底する同社ならではの工程だ。



藤本「香害の広告も話題になりましたね」
森田「柔軟剤や合成洗剤の香り成分で体調を崩してしまう方が実際にいて、私たちの製品はそうした化学物質過敏症の方々にも多く使っていただいています。しかし、香りで苦しむ方々がいることがあまり知られていなかったんです。香害の啓発をすることで、そうした方々にとって心地よい環境づくりに貢献できればと考えました。」
藤本「石けんを通してさまざまな社会課題の解決に挑んでいらっしゃるんですね」
森田「企業理念の「健康な体ときれいな水を守る。」は私たちにとっての柱です。まだまだできることがあると感じています。」



北九州市消防局の依頼で、石けんの表面張力低下効果を活用した石けん系消火剤を開発。約7年間で約800種類の試作を重ね、合成界面活性剤を使わずに完成させた。石けん成分で浸透力が高く、少ない水量で迅速な消火が可能に。毒性が低く、環境にも優しい。特に初期消火が重要な森林火災等にも有効。地球温暖化への好影響も期待されている。

“無添加”で香害に挑む

化学物質に過敏な人が香りで苦しむ香害問題を啓発した広告で話題に。無添加石けんを届ける会社として、安全性を追求するだけでなく、化学物質によって困る人が存在することを知ってもらうための情報発信にも力を入れる。この広告は実際に香害で体調不良になり、学校に行けなくなった小学生から届いた手紙をメッセージとして形にしたもの。

石けんが山火事や
香害を解決する一手に

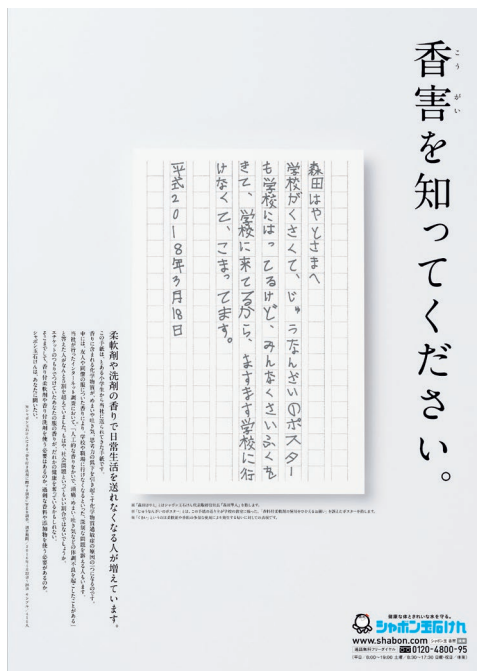
北九州銀行 藤本明宏さん（以下 藤本）—— シヤボン玉石けんが無添加に変わってから半世紀以上が経ちますね。北九州銀行（前身の山口銀行）はその時代以来、ともに歩んできました

森田隼人社長（以下 森田）—— 先代社長である父が1974年に、体に悪いとわかったものを売るわけにはいかない」と決めた覚悟が今の私たちの礎です。そこから17年赤字が続きました。100人いた社員は5人にまで減りました。

藤本—— 少しずつ無添加石けんの良さが伝わり、今は活動の幅も広がっているとか。

森田—— 石けん系消火剤をつくったり、香害

香害を知ってください。



シャボン玉石けん
RECOMMENDED BY
北九州銀行

〈シャボン玉石けん〉森田隼人社長と
〈北九州銀行〉藤本明宏さん

島をまるごときれいに!?

「シャボン玉石けん」が目指すのは、無添加^(※)石けんをつくり届けることだけではありません。「健康な体ときれいな水を守る。」という企業理念のもと、地域や世界が抱える社会課題の解決に挑み続けています。効率や利益を優先せず真摯に歩むその姿を、北九州銀行は前身の山口銀行時代から、半世紀以上にわたり近くで支え、ともに歩んできました。これからも「未来づくり」のパートナーとして、暮らしと地域社会の未来を育んでいきます。森田社長のこれからの挑戦について、北九州銀行の担当行員がお話を伺いました。

※無添加…香料・着色料・酸化防止剤・合成界面活性剤不使用

PHOTO_大城ひろみ (一部シャボン玉石けんより提供)
TEXT&EDIT_池野内かおり EDIT_山岸幸

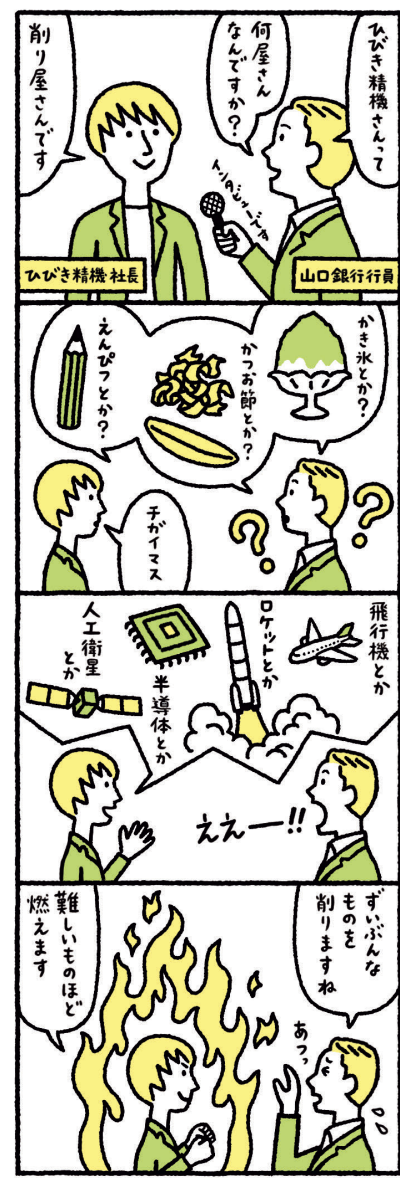
／わたしのイチオシ／
TheNEXTパートナー

地域の未来は、経済だけでなく、社会課題への挑戦や、地域に根づく文化、人と人との繋がりにから生まれていくもの。YMFGが次の20年に向けてともに歩みたい、地域の未来を形づくるパートナーとは？ 三都それぞれの行員が推薦する企業の魅力と、企業とYMFGだからこそ描けるこれからを紹介します。



株式会社ひびき精機は、 こんな会社

1967年に山口県下関市で創業した金属切削加工の会社。半導体製造装置や航空機、近年では人工衛星・ロケットなど宇宙機器関連の部品まで手がける「削り屋」集団。難しい削りや難しい形の加工を得意とし、国際的な品質規格も取得している。平均年齢35歳と若手社員が多く、2027年には新工場も稼働予定。



削りならおまかせ!



YMFGのこれから20年をともに歩む大切なパートナーとして、山口県下関市に工場を構える〈株式会社ひびき精機〉を訪ねました。日頃から仕事をともにする山口銀行の担当者が、松山社長に改めて4つの問いを投げかけます。「人」「技術」「地域」そして「世界」に関わる問いを通して、「技術で未来をつくる会社」の思想に迫ります。

削り屋・ひびき精機に 4つのクエストチョン!

PHOTO_大城ひろみ TEXT&EDIT_浅野佳子



Challenge 03

島まるごと、 無添加石けん生活

海の未来を 石けんが変える

福岡県宗像市の地島島民に、洗剤として同社の製品だけを使ってもらう実験を実施。水への環境負荷が減り、微生物の量が増えるという結果が出た。

藤本 ― 福岡県宗像市の地島で行われた実証実験も画期的な取り組みでした。
森田 ― 2021年の3か月間、島民約140名にシャボン玉石けんだけを使って生活してもらいました。宗像市、山口大学、九州環境管理協会と科学的に検証すると、下水処理場で汚れを分解する菌の量と種類が増えたとです。つまり、石けんを使うと環境への負荷を大きく減らせることがわかりました。
藤本 ― 地島は皇室献上わかが採れる海で、海産資源で生計を立てる方も多く、水や海の環境は身近な問題でしょうね。
森田 ― はい。数字として見たことは私たちにとって大きな意味があり、自信にもなりました。同時に、実験以前に使われていた合成界面活性剤の成分が下水処理後に残ることとわかり、石けんになる環境的意義が明確になりました。一人ひとりが選択を一つ変えるだけで環境を大きく改善できるという事実は、今後多くの人々の意識を変えることにも繋がると思います。あらためてこうした情報を伝えることは私たちの使命だと実感する良い機会になりました。
藤本 ― そうした歴史を踏まえて、これから新しい挑戦を考えていらっしゃるんですね。
森田 ― その通りです。新物流センターを完成させて、国内外への供給力を上げ、研究開発拠点の「イノベーションポ北九州」において持続可能な社会を目指していきます。世界の石けんメーカーを目指し、世界中で石けんを必要とするもっと多くの方々に、製品と意思を届けたいんです。
藤本 ― 石けんのできるあしたですね。その思い、私たちが全力で応援します。

島で使う石けんから
広がる澄んだ海

次の挑戦も、その先の景色も、 北九州銀行とともに

もっと多くの人へ

安全性や環境配慮への意識が社会全体で高まる中、無添加石けんへの需要も着実に広がっている。より多くのお客さまへ確実に、迅速に製品を届けられるよう、北九州市八幡西区で新物流センターの建設を進めるなど、供給体制の強化を図っている。これに際し北九州銀行は、中小企業成長加速化補助金の取得を支援。工場拡張および設備増については、2030年までの完成を目指している。



北九州を代表する企業である〈シャボン玉石けん〉。必要としている人へ製品と情報が確実に届くよう、北九州銀行は補助金取得や生産能力向上の支援をしている。

世界にも、この石けんを

近年、インドや中東、アジア各国への展開を進行中。直近ではベトナムで新しく取引が始まり、順調な滑り出しを見せている。同社の海外売上比率はまだ低く、既存取引先のさらなる深耕や新市場の開拓が今後の課題といえる。正しい情報をきちんと伝えるため、海外向けのグローバルサイトを制作。代理店選定などにも力を入れ、北九州銀行も支援を進めながら無添加石けんを世界へ届ける挑戦が続いている。

地域と育てる未来

2019年に北九州市と包括連携協定を締結し、持続可能な社会の実現に努めることを宣言。産業観光を大切にする北九州市の企業とともに工場見学を実施。北九州エリアの多くの小中学校や北九州銀行の新入行員など、年間約1.5万人の工場見学を受け入れるほか、下関市や福岡市の水族館でのイベントや、日本橋の「橋洗い」など、各地で石けんを使用したイベントを開催し、環境を守る大切さを伝え続ける。



世界へ挑む

4

山口銀行担当者から
QUESTION

世界へ出るのに、 地方銀行と組む理由は？

私は、地域を強くするには、**世界の仕事を取りにいく**ことが大切だと考えています。人口が減少する時代に、地域の中だけで仕事を奪い合っても大きな成長は望めない。だからこそ、半導体や航空宇宙分野で培ってきた技術を武器に、下関から世界の仕事を取りにいくつもりです。今、その可能性をインドをはじめとする海外市場へ広げています。

この挑戦と一緒に進めてくれている頼もしいパートナーが、YMFGです。例えば、YMFGが協働するリサーチ会社は、私たちだけでは把握しきれない市場や競合企業について調査してくれています。海外で事業を考える上では、現地の情報やネットワークが欠かせません。さらに今後は、YMFGキャピタルと一緒に発展したい企業をYMFGにつなぎ、**地域の中小製造業やスタートアップの成長を資本面から支え、新たな産業づくりにともに取り組みたい**と考えています。地域の企業と金融機関が同じ方向を向き、ともに発展していく関係をつくりたいですね。



YMFG主催の「Shimonoseki Add-venture Summit(SAS)」に登壇した松山社長

YMFGが中期経営計画で掲げる「同舟共命」に、地域が同じ舟に乗り、運命をともにするという思想があると聞き、とても感銘を受けました。そこで、ひびき精機もYMFG様社長の了承をいただき、**「同舟共栄」の理念を掲げる**ことにしました。地域の企業が世界へ出て、世界で得た仕事や知見が、また地域へ還ってくる。その循環を、YMFGとともににつかっていきたいと思います。

株式会社山口銀行
長府ブロック 支店長代理
矢山正晴さん

地域で働く

3

山口銀行担当者から
QUESTION

なぜ技術を囲い込まず、 シェアするのですか？

私は、**現代は技術を自社だけで囲い込む時代ではない**と考えています。かつては、技術を独占することが企業の競争力になった時代もありました。しかし、それだけでは地域全体は強くならない。例えば現在、ひびき精機には、単独で30億円規模の受注が見込める航空宇宙分野の仕事があります。それを一社で完結させるのではなく、地域の企業と力を合わせて受けられるようになれば、100億円以上の産業に育つ可能性があります。

そのために必要なのは、**地域全体でクオリティの高い仕事を受けられる仕組みづくり**です。ひびき精機が中心となって品質基準をつくり、必要な技術やノウハウ、教育の仕組みを地域の企業に広げていく。一社では受けきれない大きな仕事にも、地域として挑戦できるようになります。そのための場として、2027年度に新設する第4工場の2階を活用する計画があります。製造業はもちろん、将来的にはエンタメやフードなど、異分野から航空産業に関わる企業にも入ってもらい、企業同士が技術やアイデアを掛け合わせることで、新たな事業が生まれるような「地域でつくる産業」の拠点を目指しています。

さらに産業を育てることは、人を育てることもできます。若い人たちが高度なものづくりに触れ、力を発揮できる場を増やす。同時に、職業体験などを通して、子どもたちにも地域の仕事やものづくりの面白さを知ってもらう。**次世代が「ここで働きたい」と思える環境をつくる**ことも、地域の産業を強くする大切な取り組みだと考えています。



若手社員も知識を身につけ、成長できる環境を整えている

ともに地域を盛り立てる、
大切なパートナーです

技術を極める

2

山口銀行担当者から
QUESTION

職人の勘は、どうすれば 未来へ伝えられますか？

精密加工の世界には、「この刃物がいい」「この油の濃度がいい」という言葉だけでは説明しにくい感覚があります。長年、現場で経験を積んだ職人だからこそ身につけられるものですが、そうした勘や経験だけに頼っているのは、技術は人とともに失われてしまいます。だから私たちは、**職人が培ってきた感覚を、一つひとつ数値に置き換える**ことに取り組んでいます。加工条件をデータとして蓄積し、機械でも再現できるようにする。職人個人の技術を、誰もが活用できる「会社全体の技術」へと変えていく仕組みです。

私はこれを「ローテックとハイテクの掛け合わせ」だと考えています。属人的な技術を、デジタルに移し替えて汎用性を高める考え方により、技術を特定の人に閉じたものにせず、他の人、周りの企業、次世代へ渡していくことができます。これは、YMFGさんが取り組むテック・バンクにも活かされ、技術承継の新しい方法の一つになっています。



金属の塊から、複雑な形状を削り出して製作したもの

もちろん受け継ぐ技術の対象は、ひびき精機のものだけではありません。どの会社にも、その会社にはしかない優れた技術や、経験豊富な職人がいます。大切なのは、そこにある価値に気づき、未来へ残す仕組みをつくれるかどうか。それこそが経営者の仕事です。私たちが培ってきた**「技術を見える化し、次の人へ渡す」方法を地域にも広げ**、企業一社一社の技術力を高めることが、地域全体のものづくりの力を底上げすると考えています。

チャレンジングな
金融機関が地元にあって、
本当にラッキーです

ともにつくる

1

山口銀行担当者から
QUESTION

「この部品、つくれますか？」に どう応えていますか？

仕事のご相談をいただいた時、私たちはまず、**「なぜこの形なのか？」を徹底的に尋ね、理解することから**始めます。設計された形には、必ず理由があります。求められる強度や精度、重量、使用される環境など、その背景まで理解して初めて、本当に必要な加工や、より良い方法を提案できるからです。

私たちは自分たちを下請けではなく、お客様と一緒につくる「協業パートナー」だと考えています。図面をそのまま鵜呑みにするのではなく、「もっと軽くするには？」「この精度を実現するには？」「別のアプローチはないか？」と、設計の意図にまで踏み込みながら、より良い解決策を探していく。言われたものをつくるのではなく、対話を重ねながら、つくるべきものそのものを一緒に考える。それが、私たちのもう一つの技術であり、評価されているポイントかもしれません。

現在、ひびき精機は半導体製造装置や航空宇宙技術の分野で多くの仕事をしています。ただ、特定の業界だけを見ていたわけではありません。次世代の産業につながるさまざまな分野に目を向け、**私たちの加工技術が活かせる「適材適所」をひたすら探しています**。一つの難しい仕事に挑戦すれば、「うちの職人はここまで攻め込める」という新たな可能性が見えてくる。それを次の挑戦につなげ、技術の守備範囲を広げていく。そうして技術を磨きながら、新しい仕事そのものを生み出しています。



カナダ企業と協業し、航空宇宙産業のサプライヤーの課題解決を目指す

株式会社ひびき精機
代表取締役社長
松山功さん

カープを担当し、球団への出向も経験したもみじ銀行行員・土井達彦さん。もみじ銀行本店の前を走るフルラッピング仕様の「カープ電車」も日常の風景。車内には監督や選手による電停案内などが流れる。



広島東洋カープ
RECOMMENDED BY
もみじ銀行

カープが 広島をひとつにする

広島を歩くとき目にする赤いキャップと、耳にする「昨日、試合観た?」の会話。賑わいの中心にはいつも〈広島東洋カープ〉(以下、カープ)がいます。長年パートナーとして歩んできたYMFGは、これからもカープとともに広島の未来を描きたいと考えています。なぜ球団は単なる人気を超えて、地域をつなぐ存在となっているのか。その先に広がる共創の可能性を、担当行員が探ります。

PHOTO_ 谷 康弘 (一部球団、YMFG、個人より提供)
TEXT_ 片桐絵都 EDIT_ 後藤麻与

前任です



後任です

こんにちは! もみじ銀行の土井です。1945年、原爆の悲劇に見舞われた広島。そのわずか4年後に、街の復興と市民に勇気を与えることを目的にカープは誕生しました。以来、存続の危機に瀕しながらも市民の手で支えられ、プロ12球団のうち、唯一親会社を持たない市民球団として愛されています。そんなカープのメインバンクとして、もみじ銀行は半世紀以上にわたり伴走してきました。私が担当になったのは2019年。球団の経理担当者が不在という悩みを聞き、出向しました。現在は後任に引き継ぎ、金融取引を超えた支援を続けています。さらに、街と一丸となって応援する取り組みも。代表的なのが1995年から続く「カープV預金」。カープの成績に応じて特典がつく定期預金で、市民と喜びを分かち合うことができます。またATMや窓口設備を搭載したカープデザイン移動店舗車「カープV号」で県内を巡回したり、YMFG・もみじ銀行による協賛試合で来場者向けの抽選会を実施したりもしています。試合のない日でも街には赤いチームカラーがあふれ、子どもからお年寄りまで地域の共通言語となっているカープ。これからは手を取り合い、広島の温かな未来を築いていきたいですね。



ここにしかない 応援文化とは?

#カープ愛の ヒトコトモノ

- ① **カープお菓手帳**
体調が悪い時こそカープにそばにいてほしい。
- ② **ユニフォーム行員**
シーズン中、もみじ銀行では行員もユニフォーム姿に。店内外も装飾され、全力で応援モード。
- ③ **カープ改札**
ホーム開幕時には広島駅もカープ色に。駅員もユニフォーム姿で出迎え、街をあげて応援! 写真提供: JR西日本
- ④ **カープネイル**
カープファンはネイルも抜かない。赤と白のコントラストに、カープ坊やがアクセント。
- ⑤ **赤ヘルスイーツ**
今年で3年目の〈ヒルトン広島〉とのコラボ企画。カープモチーフのスイーツがビュッフェに並び。
- ⑥ **スタメンキッズ**
ファンクラブのキッズコース限定イベント。1回表の守備につくスタメン選手をお出迎えできる。
- ⑦ **カープ赤ちゃん写真展**
〈イクナガ写真場〉などで撮った写真を大型ビジョンへ放映。我が子×カープ愛で可愛さ炸裂。
- ⑧ **カープ観戦VLOG**
観戦までのワクワクや球場内の熱気をVLOGで発信するファンも多数。観戦コーデの参考にも。
- ⑨ **CCダンス**
5回裏終了時にファンがグラウンドに入り、球場全体で踊る名物イベント。SNSなどでも話題。
- ⑩ **もみじ銀行限定グッズ**
「スポンサードゲーム」などのイベントで配布される非売品のコラボグッズ。応援気分がさらに盛り上がる。

カープがあるから 繋がりが育まれ、 誇りが生まれる

12球団の全てに本拠地と呼ばれる都道府県があるが、「カープ」と広島ほどの強い絆は他にはないと思うと土井さん。それを確信したのは、カープに出向した直後、3連覇を果たして間もないタイミングだった。観戦チケットを求める人がマツダスタジアムの販売窓口に押し寄せ、なんとその列は広島駅まで続いている。街の盛り上がりカープの活躍に直結していることを、肌で感じた瞬間だった。

カープは、球場でしか味わえない観戦体験を重視する球団としても、他球団とは一線を画している。その起点となっているのが本拠地球場のマツダスタジアムだ。アメリカ・メジャーリーグの球場にヒントを得て2009年に建設。試合観戦だけでなく飲食や回遊を楽しむ空間を実現し、当時では珍しいボールパーク化にいち早く取り組んだ。コンコースは一周すると約600m。地元ファンが集まるため、歩いていけば大抵知り合いに会い、ちょっとした交流拠点にもなっている。「アメリカの球場で感動したのは、別々の

家に暮らす3世代が日曜日に試合を観に来て、みんなでべちゃくちゃ喋りよること。観戦だけじゃなく球場が家族の集まる場にもなってるんです。(マツダスタジアムも、こういう繋がりができる球場にしたいと思ったんですよとオーナーの松田元さん。地域の人がつながる機会を増やすため、試合以外のイベントにも注力している。例えば今年8月には「伯方の塩」と「JOXSOUND」と「ラボ」、会場内の特設ブースで「ノは・か・た・の・しお」を歌って70点以上を出すと特製塩ドリンクがもらえるというイベントを行った。また、試合がない日にも一般開放しており、グッズショップやギャラリー、カフェには、赤いキャップやユニフォームを身につけた人々で賑わう。

日常に溶け込みファンであつてもなくても自然と勝利を願ってしまう。それがカープと街の人との距離感だ。カープを応援することが、地域に関わることへの喜びを生む。松田オーナーは「広島を出ていった若い人らにも誇りに思ってもらえる球場であり続けたい」と話す。その環として、「FAIROSHIMA」の中で小学生対象の体験事業に取り組んでいる。場内アナウンスや審判員へのインタビューなど、観戦とは異なる形でスポーツや地域文化に触れる機会を与え、次世代にも「自分たちの地域にはカープがある」という誇りを育む活動だ。カープのさらなる挑戦への船出に、もみじ銀行もともに乗り出していく。

すべては感謝の心から



A1.「感謝の心」。お客様の「感謝して過ごせばありがたい」と思える出来事が巡ってくるという言葉に、ご縁や仲間、経験への感謝を忘れずにこれからも地域のお役に立てる存在でありたいと思っています。**A2.** 支店長就任時に、周囲に支えられ乗り越えた経験は忘れられず、日々の感謝につながっています。[山口銀行 堀支店 庄 芳]

A1.「まず、自分で考えること」。他者の意見を受け入れるだけでなく、自身の軸・意見を持つことで自己の成長のスピードが高まると考えています。**A2.** 事業再生において、経営層よりも現場従業員との対話を重視したこと。現場の皆が味方となり、一丸となって動くことで早い業績改善と事業再生を実現できました。[山口銀行 営業統括部 伊藤忠志]



考えることが成長源

期待に応え続ける



A1.「期待に応え続けること」。周囲の期待に真摯に向き合い、結果で応える積み重ねが信頼と自己成長につながります。**A2.** グループ3行一括採用への移行期の採用業務。組織変革の局面で、未来の人財へ当社の魅力をどう伝えるか、チームで試行錯誤しながら形にした経験が深く印象に残っています。[ワイエム証券 岩国支店 國宗史彦]

言葉と表情から汲み取る

A1.「お客様との会話」。言葉や表情から潜在的なニーズを汲み取り、感謝の言葉をいただくことにやりがいを感じています。**A2.** 2006年のパートからビジネススタッフへの転換。育児と両立する中、挑戦する機会をくれた会社や多くの上司や同僚への感謝の気持ちは今も変わりません。[山口銀行 江崎支店 伊藤笑美]



＼勤続／ YMFGの 20年選手たち

会社の変化を見つめ、ともに成長を遂げた20年。入社当時の記憶から、今胸にあるYMFGへの思いまで。勤続20年の社員に聞きました。

Q1. 20年間働いてきて、一番大切だと思うことは何ですか？
Q2. 20年間で忘れられない仕事での出来事を教えてください。

支えられて乗り越える



A1.「感謝の気持ち」。仕事はお客様や地域、周囲の支えがあってこそだと実感しています。**A2.** 入社当初に知識不足で苦労した経験。しかし、上司や同僚の親身な支えで一つひとつ壁を乗り越え、「人の支えが人を成長させる」と実感し、その経験は今でも忘れられません。[山口FG 人財支援部 山本泰輔]

顔を見て挨拶を徹底

A1.「人とのつながりと信頼関係」。お客様や周囲に誠実に向き合い、責任を持って業務に取り組んできました。**A2.** 入行当初「お客様の顔を見ずに挨拶してはいけない」と上席から指導されたこと。この教えを胸に、多忙でも顔を見て挨拶する姿勢を今も徹底しています。[北九州銀行 熊本支店 宮崎恵美]



何事にも意味がある

A1.「人や物事には必ず意思や意味がある」と捉えること。些細なこともお客様、会社、自分自身と多面的な視点で的確な対応を心がけています。**A2.** 2010年のChance地銀共同化システム導入。導入前後の1年以上の期間、支店内の仲間と試行錯誤した経験が強く印象に残っています。[(株)やまぎんカード 田村亜友美]



未来までずっと伴走者

A1. お客様の「将来どうありたいか」に耳を傾け、同じ未来を見据えて伴走すること。それが私の営業の原点です。**A2.** 創業者の「創業の地を守り事業承継したい」という夢を、現経営者が形にした案件。約2年、多方面から伴走し、親子2代の想いが実現した瞬間は今も強く心に残っています。[北九州銀行 長崎支店 石本勇貴]



聞く・考える・表現する



A1.「聞く」「考える」「表現する」こと。顧客や同僚との信頼関係の基礎であり、うまくいかない際は常にこの3点に立ち返ります。**A2.** 優良法人代表の住宅ローンを担当し、新居に招かれるほど感謝されたこと。日頃の対話を通じた、深い信頼関係の大切さを実感した出来事です。[もみじ銀行 可部支店 渡邊拓郎]

感謝、真摯、誠実

A1.「周囲への感謝と、真摯かつ誠実に仕事に取り組む」こと。相手の立場に立った迅速な対応や、新知識の習得による業務向上を心がけています。**A2.** 資産運用担当者時代の経験。周囲の支えでスクーターの練習や同行訪問を重ね、試行錯誤の末に初めて一人で成約をいただいた時の達成感は今でも忘れられません。[山口FG カスタマーサービス部ATM集中センター 宮重玲子]



From LOCAL



15年前、老後の楽しみに「マツダスタジアム」の年間指定席を買ってみたら見事にハマりました。年に数回は応援に行けない日もありますが、それ以外は欠かさず足を運んでいます。今はもう渡米しましたが、鈴木誠也選手が観客席に投げたボールをキャッチできた時は嬉しかったですね。最近残念なのは、歳をとって新しい選手の個人応援歌が覚えられなくなってきたこと。それでも、元気の続く限り通い続けます。 河部 毅さん(81歳)

宝物は鈴木選手の記念ボール

From OWNER



カープともみじ銀行は家族

カープ設立は1949年。わしは1951年生まれなので、全生涯をカープとともに歩んだ感覚です。カープには戦後からの長い歴史があって、それが広島に染みついている。街の空気みたいなものです。人は空気がないと生きられんでしょう？そういうことです。市民のみなさんは、カープに愛憎のような思いを抱いているように感じます。愛情が深い分、勝てない時は憎くなる。優勝パレードの時には、遺影を持って参加されている人もいました。「亡くなったあの人に、願い続けた優勝を見せてあげたい」ということですよ。オーナーとしては胸が痛い。わしは「赤字」という言葉が一番嫌いです。黒字にするのがオーナーの仕事。そしたらある時、グッズの開発者が「全部赤字のボールペンを考えてみました」なんて言うんです。「赤字は好かん!」と却下したんじゃけど、結局売り出されて、これが爆発的に売れた(笑)。祖父の代からオーナーを続けてきて、一貫しているのは地域への思い。カープを通して、広島と、この街に住む人に貢献することです。もみじ銀行は同じ思いを持って、資金面でも人材面でもずっとカープを支えてくれている。もう家族のような存在やね。これからも地域のため、ともに頑張っていきたい。

人気の3色ボールペン(赤・赤・赤)。「売れたとしても赤字は嫌いです」



From TOKYO



生まれた瞬間からファン!

両親もカープファンの私にとって、カープは人生の一部。2010年から続く関東の学生グループによるカープファン向けのフリーペーパー『Capital』の編集をしています。昨年、大レジェンドの前田智徳さんに取材できて感無量でした。来年から広島で働くことが決まったので、ファームの〈由宇球場〉にも行って若鯉の成長まで注目したいです。関東のお友達が広島に来てくれた時には、全力で案内します! 石橋花雪さん(21歳)

銀行の固定観念を覆せ！ 地域とともに航海へ

YMFGの
これまで
20年

小さな一艘の舟が漕ぎ出してから20年。山口フィナンシャルグループという舟は、乗組員を増やしながら大きくなってきました。この舟はこれからどこへ向かうのでしょうか。これまでの20年を振り返り、次の20年を描きます。

ILLUSTRATION_長末香織 TEXT&EDIT_浅野佳子

二人三脚で
航海が始まる

2006

YMFG設立

山口銀行・もみじ銀行両行の統合は、地域の枠を超えた広域での経営統合として、全国に先駆けた取り組みでした。広域ネットワークを武器に、地域経済活性化を担う金融グループ、山口フィナンシャルグループとして航海を始めました。



2007

ワイエム証券設立

銀行と証券の連携により、個別株式を含む幅広い資産運用ニーズに対応。グループ体でお客様の資産形成を支える体制を整え、総合金融サービスの礎を築きました。

2006【北九州】
北九州空港が誕生

2009【広島】
MAZDA Zoom-Zoom
スタジアム広島オープン

2016

人事制度の統合

3行の垣根を払い、フィナンシャルグループとして一括採用・配属を行う体制へ。組織の一体感を高め、グループ各社の専門的な知見が循環しやすいプラットフォームへと進化しました。



地域の未来を
プロデュース

2015 YMFG ZONE
プランニング設立

金融の枠を超え、地方創生・官民連携・観光まちづくりを担う専門会社として設立。自治体や企業と伴走しながら、地域課題の解決と新たな価値創造に取り組む体制を整えました。



ついに3行体制で
一致団結！

2011

北九州銀行開業

政令指定都市である北九州市に本店を置く唯一の地方銀行として、地元の強い要望に応え誕生。山口・広島・北九州を密に結ぶ、他に類を見ない広域3行体制が完成しました。



2016【広島】
広島東洋カープ
25年ぶりセ・リーグ優勝

2015【山口・北九州】
「明治日本の産業革命遺産」
関連資産が世界遺産に

従来の銀行の領域を超え
「まち」の魅力を考える

2017

「長門湯本温泉
観光まちづくり」
への関与



地域商社やまぐち設立

地域の生産者と歩みをとにし、販路開拓や商品開発を支援。マーケティングや商品開発を通じて地域資源の価値を高め、その魅力を全国・世界へつないでいます。

山口銀行の金融支援、YMFG ZONEプランニングの構想・事業推進支援、YMFGキャピタルが投資を行うなど、グループ総合力を発揮した象徴的な事例。官民連携による温泉街再生は、地域全体の価値向上を実現する取り組みとして全国から注目を集めています。

2018 データ・キュービック設立

官民連携の
新たな形に挑戦

データ分析やデジタル技術を活用し、企業の課題解決を支援。DX時代を見据え、新しい領域への挑戦をスタートさせました。

山陽小野田市
LABVプロジェクト開始

行政と民間が共同で地域価値の向上に取り組む日本初の「LABV方式」が始動。YMFGも構想段階から伴走し、官民連携による地域経営の新たなモデルづくりに挑戦しました。



2019

YMキャリア設立

地域企業と経営幹部人材などをつなぐ、人材紹介事業を開始。求人企業・求職者の双方に伴走し、人材面から地域企業の成長を支えています。



2018【北九州】
全国初のSDGs未来都市・
自治体SDGsモデル事業に

2018【山口】
明治維新150年、
山口ゆめ花博開催

2020

新しい挑戦が
続々と形に

地域で働く人を
もつと元気に

2021

イネサス設立

社内起業から生まれた地域密着型福利厚生プラットフォーム（イネサス）。デジタルクーポンを通じ、地域の人々が地域の店を利用する好循環を生み出し、企業の人的資本経営を支えます。



YMFGパーパスの策定

「地域の豊かな未来を共創する」という存在意義を明文化。全ての事業の判断軸を再定義し、地域と共に歩む覚悟を、社員一人ひとりが自分事として捉え直しました。

長門湯本温泉、
再生が本格化

〈界・長門〉や〈恩湯〉がオープンし、長年進めてきた温泉街再生が結実。後にSOIL Nagatoyumotoも開業し、官民が連携して地域全体の価値向上を目指す取り組みが実現しました。



2022

ブランド刷新・
「ブランドコミュニケーション
ブック」創刊

ブランドロゴと「この世界で。この街で。このじぶん。」というブランドスローガンを発表。パーパスへの共感を広げ、地域と想いを一つにするためのコミュニケーションを加速させました。



2022【山口】
企業誘致が
年間37件に到達



ぎょうん亭 本店の
「どろどろラーメン(本店限定メニュー)」
 「臭みゼロの超濃厚スープが中太麺に絡み、
 気づけば完食してしまう満足の一杯です」
 推薦人：北九州銀行 堀口遼平 店舗：北九州市小倉北区三郎丸3-6-29

**「名物のモダン焼きは、
 香ばしい味わいと
 ボリューム感が魅力です」**

メニュー：モダン焼き
 推薦人：北九州銀行 田谷知也
 店舗：梅月／北九州市門司区栄町1-10



**「おじやうどん、
 カルボナーラ
 うどんなどの
 創作うどんが
 手頃な価格で
 楽しめます!」**

メニュー：とりおじやうどん 推薦人：もみじ銀行 村田幸真
 店舗：太閤うどん 中町店／広島市中区中町6-30 広テレプラザ1F



**「こだわりとんかつうどん 三万石の
 「カツ丼セット(ミウどん付き)」**

「三原の名店! 自慢のとんかつは外はサクサク、
 中はジューシー。手打ちうどんとの組み合わせも人気です」
 推薦人：山口銀行 木下晃平 店舗：三原市南方3-13-1

**三陽食堂の
 「アジフライ定食」**

「揚げたてサクサクの
 アジフライが人気!
 地域を活性づける名店です」
 推薦人：北九州銀行 平畑結衣子
 店舗：福岡市中央区長浜2-3-6
 三陽長浜ビル1F

**ニューラッキーの
 「日替わりランチ」**

「1942年創業。銀天街にあり、
 地元民に愛され続ける
 老舗の洋食屋です」
 推薦人：北九州銀行 内田翔大
 店舗：北九州市門司区栄町2-19



メニュー：自家製ハンバーグランチ(週替わり)
 推薦人：山口銀行 能島恵理
 店舗：Tutuyu／尾道市久保2-14-6

**South in Northの
 「スパイスカレー」**

「旧南方小学校の校舎を再利用したカフェ。
 スパイスカレーとパスタがおすすめです!」
 推薦人：もみじ銀行 山崎美幸
 店舗：山県郡北広島町南方1918

an bakeの「ベーグル」

「国産小麦と天然酵母を
 使用したベーグルがおすすめです」
 推薦人：イネス 安田光輝
 店舗：安芸郡海田町国信1-10-18



**「1965年創業の老舗。
 昔ながらの懐かしさを
 感じさせる
 「オムライス」が一押し!」**

メニュー：オムライスと唐揚げのセット
 推薦人：北九州銀行 原 拓央
 店舗：CAFE風車／広島市中区基町6-27
 アクア広島センター街7F

瓦そばPINの「瓦そば」

「山口出身オーナーのお店。ランチの
 熟々バリッとした名物「瓦そば」は絶品です」
 推薦人：山口銀行 岡村裕子
 店舗：名古屋市中区錦2-9-9



メニュー：ラーメン 推薦人：YMFGキャピタル 平原 遼
 店舗：主順／北九州市門司区黄金町10-25

グルメ社員の厳選20品

地域に根ざす私たちだからこそ出会えた、とっておきの一品。
 三都エリアの魅力が詰まった、YMFG社員おすすめのランチスポットを集めました。



**「隠れ家的な、落ち着く雰囲気のお店。
 スープカレーが美味しいです!」**

メニュー：野菜の薬膳スープカレー
 推薦人：山口FG 吉村蓮華
 店舗：さんさんカフェ／下関市菊川町大字貴飯909

**さぶろう亭の「長萩和牛の
 石窯ローストビーフ 龍神の鹽と共に」**

「見晴らしの良い立地で堪能する、
 地元食材を使ったこだわりの料理は絶品です」
 推薦人：山口銀行 原田徹太郎
 店舗：大島郡周防大島町棕野1099-6

**「古民家を改装したお店で、
 素材にこだわった美味しい
 せいろ蒸しが食べられます」**

メニュー：3段重ねのせいろ蒸し 推薦人：山口銀行 増田 楓
 店舗：優縁～yuuen～／周南市呼吸小原田1052-1



**Organic &
 Vegetable kupuの
 「kupuプレート」**

「オーガニック食材を主に使用した、
 からだに優しい食事におすすめ」
 推薦人：山口銀行 浅海静江
 店舗：周南市若宮町2-7 若宮ビル2F

**BLUE EDGE
 Diner.の
 「ハンバーガー」**

「海沿いにあり、絶景を楽しめる
 大人気のカフェです」
 推薦人：山口FG 財部梨奈
 店舗：下関市福江545-1

YMFGの これから 20年

これからの20年、私たちYMFGが目指すの
 は、「地域課題解決のプラットフォーマー」へ
 の進化です。「地域の発展なくしてYMFGの
 発展はない」という考えのもと、「同舟共命型
 ビジネスモデルの確立」を、まずは2029年度
 までの目標に掲げています。

これからの地域や企業の悩みは、資金だけ
 ではありません。売上拡大、人材確保、DX、
 脱炭素化対応、事業承継など、課題はますます
 複雑化・多様化しています。だからこそ、金
 融を起点に、グループのさまざまな機能を掛
 け合わせながら、ワンストップで課題解決を支
 える存在でありたいと考えています。

視線は地域の外にも向いています。地方
 から世界へ挑戦する企業を後押しすること、
 海外でのビジネス機会を広げること、そして
 AIをはじめとする新しい技術を地域の力に変
 えていくことも、これからの重要なテーマです。

20年後を正確に描くことはできません。そ
 れでも20年前に小さな一艘の舟として漕ぎ
 出したYMFGは、多くの仲間と出会い、航路
 を広げながら成長してきました。次の20年も、
 地域と同じ舟に乗り、豊かな未来を目指して。
 変化をおそれず、新しい価値をともに作り
 続けていきます。



2026

YMFG 20周年

小さな一艘の舟から、乗組員が増え続けたこの20
 年。次の航海に向け、新たなスタートを切ります。

The next move
 Beyond
20

地域の未来を
 ともにつくる

2023

地域と スタートアップを結ぶ

**Shimonoseki Add-venture
 Summit(SAS) 初開催**

下関にスタートアップと地域企業を集結させ、具体的な
 アクションを促すピッチイベント。回を追うごとに商談も活
 発化し、地域の枠を超えた新たな共創が芽生えています。



**地域金融グループ
 初のSIB事業開始**

行政の課題解決に対し、成果連動報酬型
 で民間資金を呼び込む仕組みにチャレンジ。
 行政と民間資金をつなげる、金融の新たな
 チャレンジが始まっています。

**YMFGグロース
 パートナース発足**

グループ内に分散していたコンサルティングや人
 材紹介、DXなどの機能を一社に集約。地域企業
 の多様かつ複雑な経営課題に対し、固有の最速
 解をワンストップで提供する体制が整いました。

2025

**SOIL
 Nagatoyumoto
 オープン**

「温泉街とつながる宿」をコンセプトに、
 「SOIL Nagatoyumoto」を開業。後継
 者不在という地域課題に対し、パートナ
 ーと共にグループ一丸となって実現した
 地域共創プロジェクト。施設内で完結し
 ない、まちへ開かれた設計により、地域
 の持続的な魅力向上へとつなげます。



金融の力で
 社会課題にチャレンジ

2023「広島」
 G7広島サミット開催

2025「広島」
 広島駅・駅前大橋
 ルートが開業

2025「北九州」
 60年ぶりに
 人口転入超過

地域には、
まだまだ知られていない
可能性がある。

どんな新しい力に注目してる？

Q1

〈日本製鉄〉さんや〈TOTO〉さん、〈安川電機〉さんなどがひしめくものづくりの街・北九州。大手企業が地域産業を支える一方で、スタートアップも次々と芽吹いています。そんな中、私が注目しているのは、老舗メーカーの新陳代謝。ここ数年の代替わりで40〜50代の経営者が増え、オフィスの刷新から工場のDX化、スタートアップ育成、街の景観再生にいたるまで、高い課題意識を持ってさまざまな挑戦を始めています。これからの時代、生産力と付加価値を高めるためには、スピード感のある一歩を踏み出すことが不可欠です。当行でも、ベトナムやインドへの行員派遣をはじめ、市や商工会議所、大使館、JETRO、JBICなどの関係機関と連携しながら、経営者の熱い思いに伴走したいと考えています。



多彩な地形と産業を持つことから「日本の縮図」と称される広島県。かつて西部は安芸国、東部は備後国と呼ばれ、同じ県内でも表情は大きく異なります。西部を代表する企業は自動車メーカー〈マツダ〉さん。近年では、関連事業者が自動車製造のノウハウを活かして航空宇宙分野に参入するなど、新たな動きが出てきました。一方、東部には食品トレーで国内シェアNo.1の〈エフピコ〉さんや、半導体製造装置の開発で急成長を遂げた〈ローツェ〉さんなど、チャレンジングな企業が集まっています。そんなユニークな産業基盤を持ちながらも、スタートアップはまだまだ少なく、伸び代があるのも広島島の面白いところ。既存企業の技術と若い力が結びつくよう、今後も柔軟な支援を行ってまいります。

1815年を起源とし、質の高い研究を積み重ねてきた山口大学は、地域の未来を拓く一つの起点となるでしょう。例えば、2017年のJAXA拠点開設を契機に、同大が持つ膨大な衛星データを活用した研究が進み、宇宙産業の発展につながっているそうです。当行でも2020年に山口大学発スタートアップ等を支援するファンドを設立。最近では、医学を学んだ行員を附属病院に外向させて改革に取り組むなど、融資にとどまらない関係性を築いています。医療は地域の大切な生活インフラです。しかしながら、インフレで医薬品などのコストが上がっても、診療報酬の引き上げは難しく、経営難に陥る病院も。そこで山口大学とともに、複数の医療機関で物流や設備を共同運営する仕組みづくりも検討しています。



豊かな日々を未来へと
つないでいくために。

街の暮らしをどう支えていく？

Q2



地方財政が厳しくなる中、行政だけで街づくりを進めるのが難しくなってきました。そこで当行も地元企業と手を組み、山陽小野田市や徳山駅周辺の開発に尽力しています。2018年、徳山駅前に〈スターバックス コーヒー〉が初出店した際には、これまで駅を利用することのなかった若年層が列をなし、店舗別売上で全国1位になったことも。街づくりにおいて重要なのは、若い世代を当事者として巻き込むことです。私も山口出身なのでわかるのですが、山口県民はPRが苦手(笑)。他県に誇れる資源がたくさんあるのに、その魅力を活かしていきれていないために、若い世代が流出してしまっている。今後の開発を通して、「ここに住み続けたい」「また戻ってきたい」と思ってもらえる街にしたいですね。

広島には「原爆ドーム」と「厳島神社」の2つの世界遺産があり、海外から多くの観光客が訪れます。欧米のインバウンドが中心で、他県から来た日本の方は、その数の多さに驚かれます。けれど、広島市内に宿泊するのはそのうちの3割程度。多くが他県へ流れているのが現状です。一因は、世界遺産に続く目的地が見出しづらいということ。そこで考えているのが、瀬戸内海の多島美を活かしたコンテンツの提供です。例えば、船上で名産の牡蠣を味わいながら海に沈む夕日を眺めるような、広島でしかできない体験。宿泊や飲食への消費が増えることで、街にお金落ち、日常に賑わいが生まれます。まだまだ私の個人的な構想段階ではありますが、地域の方々と共に創りたいと思っています。



北九州は鉄鋼業を礎に、ものづくりの街として発展。その後、都市の魅力を高める街づくりを重ね、その姿を大きく変えてきました。近年は半導体関連企業の進出が著しく、製造業の集積地という特長に加え、半導体製造に欠かせない電力や水を安定供給できる地の利も、発展を加速させています。こうした変化とは対照的に、歴史ある街並みや豊かな海の幸など、変わらない魅力もあります。それらすべてを受け止め、街を活気づけているのが人の力。地元経営者は横の繋がりが高く、「北九州をもっと良くしたい」という共通の思いで固く結ばれています。今後も人が主役となって事業拡大が進んでいけば、暮らしはより豊かになるはず。私たちも地域の一員として、その熱量に真摯に応えてまいります。



The next move Beyond 20 Q&A

地域に息づく資源を活かしながら、それぞれの発展を続ける三都の街。時代の流れとともに、企業や人々に寄り添う地方銀行の役割もまた、変化が求められている。YMFG設立20周年という節目に、傘下の山口銀行、もみじ銀行、北九州銀行は何を見据えるのか。3人の頭取の言葉から、街の未来と地方銀行の可能性を紐解いていく。そう、聞きたいのは過去ではなく、これからの話。

これからの話をしよう。

3人の頭取に聞きたい3つのこと

PHOTO_西あかり TEXT&EDIT_片桐絵都 EDIT_山岸幸

YAMAGUCHI

山口銀行 頭取
曾我 徳將

(そが・なるまさ)

1963年山口県下関市出身。1987年山口銀行入行。山口銀行取締役、YMFG常務執行役員・取締役専務執行役員などを経て2022年より現職。



HIROSHIMA

もみじ銀行 頭取
平中 啓文

(ひらなか・ひろふみ)

1967年山口県下関市出身。1991年山口銀行入行。YMFG執行役員・常務執行役員、もみじ銀行取締役専務執行役員などを経て2024年より現職。



KITAKYUSHU

北九州銀行 頭取
岡田 健吾

(おかだ・けんご)

1975年山口県下関市出身。1999年山口銀行入行。北九州銀行久留米支店長、YMFG執行役員、北九州銀行取締役などを経て2026年より現職。



このまちで生まれた 新しい挑戦20

プレイヤーを生み出す

スタートアップや起業家、後継者など
未来をつくる挑戦者を支える

地域産業を進化させる

新規ビジネスや付加価値を生み出し
地域産業の可能性を広げる



YMFGが携わったまちの新たな一面をのぞいてみよう！

YMFGの20年、三都のまちに
さまざまな芽生えや成果が生まれました。
「新しい挑戦と価値の創造」をテーマに、
今後の展開が期待される
私たちの共創プロジェクトを一挙に紹介！

まちのエンジンをつくる

新たな交流や賑わいをつくる
まちを動かす仕組み

ILLUSTRATION_米村知倫 TEXT&EDIT_後藤麻与

「お金を貸す・
預かる」だけでは
もう足りない時代。

これからの地方銀行にできることって？

Q3

「今日よりも明日」

私はラーメンが大好きです。もう少し若ければ食べ歩きたいくらいですが、健康のことを考えて、ほどほどにしています。先日、行きつけのラーメン店の女将が亡くなり、後継者がいらずに閉店してしまいました。とても悲しかったですが、私たちの仕事は多岐にわたりますが、大切なのは「今日よりも明日」。結局、地域の未来をより良くすることに尽きると思っています。そのためにも変化も必要ですが、決して変わってはいけないこともある。地域の変えたい財産を増やせるかが重要なのではないのでしょうか。

今、当行ではコンビニートの脱炭素化に力を入れています。山口県には「岩国・大竹」・「周南」・「宇部・山陽小野田」の3つのコンビニートがあり、石油化学や製鉄などの基礎素材産業が地域の経済と雇用を支えています。同時に、CO₂排出量の削減は喫緊の課題ですが、設備投資などのコストが先行するため、企業だけに負担を集中させる方法では実現が難しい。自治体や国とも連携しながら、GXによる産業転換を進めようとしています。脱炭素化の新たなモデルが形成できれば、事業を継続・発展させることができ、雇用が生まれ、そこで働く人が安心して暮らしている。こうした循環をつくることも、地方銀行の役割だと思っています。目の前の小さな仕事が大きな未来へつながっていると信じて、これからも地域とお客さまとともに歩んでいきたいですね。



YAMAGUCHI

「まずはお客さま」

広島は原爆によって中心部が焼け野原になりました。何もなかったところから人々が街をつくり、産業を育て、復興を遂げたのです。この強さこそ、広島が揺るがない誇り。私たち行員は融資や事業承継などのお手伝いを通して、その精神を次の世代へと受け継いでいかなければいけません。そこで求められているのは、お客さまの挑戦を支えるために必要な企業や人材、技術をつむぎつづける力だと思っています。

私は銀行員のように、名刺一つでどんな業種のお客さまにも会いに行ける仕事をほかに知りません。幅広い分野に精通するのは難しいことですが、行員はありがたいことに、特別な勉強をしなくても、お客さまからありとあらゆる事業のお話を聞くことができます。そこで新入行員への教育として、当行ではまず簿記を教えます。目的は資格取得ではなく、お客さまの決算書を読めるようになること。決算書には数字だけでなく、経営者の思いや、実現したい未来を言語化するヒントが詰まっているからです。私がいつも行員に伝えているのは「まずはお客さま」という言葉です。お客さまの多様な課題が行員を育て、思いがけない出会いが広がり、地域の未来を共創する喜びが味わる。すべての起点はお客さまなんです。今後はAIの活用によって、事務作業が人の手から完全に離れる日がくるでしょう。けれど、最後に考え、判断し、行動するのは人。その思いを胸に、広島が培ってきた強さを次代へ継承していきます。



HIROSHIMA

「やりきる」

これからの地方銀行の役割は、企業課題を「点」ではなく「面」で捉え、総合的に支えることです。例えば人材。全国的な問題ながら、北九州でも人手不足に頭を抱える企業は少なくありません。しかし単に人を採用すればいいという話ではなく、プロフェッショナル人材の幹旋や、AI・設備投資による生産性の向上など、企業によって最適解は異なります。答えを確実に導き出せるよう、当行では、YMFGグループの幅広い知見を取り入れながら、経営者と対話を重ねています。また、北九州という一つの街に閉じるのではなく、YMFGならではの広域ネットワークを活かすことも重要です。北九州で培われた現場力を山口・広島に技術と掛け合わせ、海外市場へ展開する。そうした地域を超えたビジネスの創出も、私たちだからこそできることです。

来々、北九州空港の滑走路は2500mから3000mに延伸します。これまでの24時間空港という強みに加え、アジアだけでなく欧米の航空貨物の拡大が期待でき、小倉南エリアでは物流倉庫の開発も進んでいます。多様化する企業課題と街の変化に対応するためには、行員一人ひとりがさまざまな分野に好奇心を持ち、学び続ける姿勢が欠かせません。そして大切なのが「やりきる」という覚悟です。企業と同じ舟に乗り、リスクを共有しながら、構想を形にし、最後までやりきる。その積み重ねが信頼関係を育み、企業の成長、ひいては街全体の活力につながるのだと思います。



KITAKYUSHU

全国初

民間資金で健康づくりを動かす 05

山口市ずっと元気プロジェクト

地域金融グループがサービス提供事業者を取りまとめる全国初の仕組みを実現。高齢者の社会参加とQOL向上、地域事業者の新たなビジネス機会を生み出している。



ものづくりのまちから国内初のLABV誕生 04

山陽小野田市LABVプロジェクト

市有地の現物出資と民間資金を組み合わせる国内初の官民連携手法「LABV」を創設。複合施設（アスクエア）を拠点に、地域価値向上と持続可能な地域経営を目指す新たなモデルを実現した。

三都でまちづくりネットワーク確立

PPP/PFI地域プラットフォーム・セミナー自治体と民間企業の対話・連携を促進し、複合施設整備や公共施設再編などの案件形成を支援。官民連携による持続可能なまちづくりにつながっている。

03

銀行、まちのパン屋や学び場になる

YMFGコラボ店舗銀行店舗を地域との共創の拠点へと進化させるべく、異業種とのコラボ店舗を展開。まちのパン屋や学習塾など、さまざまな地域事業者と連携しながら、地域に新たな交流を生み出す場へ発展させた。



まちのエンジンをつくる

地域と挑む温泉街再生 01

長門湯本温泉における地域創生プロジェクト

長門湯本温泉エリアにおける新たな魅力創出を支援する、中国地方初のまちづくりファンドを設立。長門市や地域事業者と連携し、公衆浴場（恩湯）や老舗旅館（六角堂）の再建などで新たな客層呼び込み、「地域との経済的インパクト」をもたらす。



地域産業を進化させる



「中小企業の星」へ、ともに挑む

出資と人材で支える、〈たのおザウルス〉の成長出資と人材面での支援を通じて、新工場建設に向けた大型投資や2拠点体制の構築、さらには持続的な成長を支える組織づくりを後押ししている。

〈地域商社やまぐち〉が特産品を全国へ届ける！ 15

山口県産品の新商品開発・販路開拓

地域事業者との共創から新たな商品が次々と誕生。商品開発から販路開拓までを一体で支援し、都市部の百貨店やスーパーマーケットなどを通じて山口産の魅力を届ける仕組みを築いている。

創業100年、売上高100億円。その先の未来へ 13

新工場と人材で、

〈新光産業〉の成長基盤を強化

新工場建設と人材面での支援を通じて、食品・医薬分野や水素関連領域などへの事業展開を後押し。売上高100億円、創業100年の実現に向けた新たな成長体制づくりを支えている。

GXで産業の未来を切りひらく 12

山口県GX戦略地域

「新事業創出・育成タスクフォース」

山口県や地域企業と連携し、GX戦略地域の認定に向けた取り組みを推進。エネルギー転換と新たな事業の創出を通じ、GX型産業クラスターの形成を目指している。



08

「渡す気持ち」も「渡される気持ち」も育む

北九州市アトツギ未来創造プログラム Bridge

家業の強みを生かした新規事業や既存事業の変革が各社で始動。同じ志を持つアトツギや専門家との繋がり生まれ、地域で次世代経営者を育てる基盤づくりにつながっている。

北九州市との事業承継連携における第1号事例

Searchファンドを活用して〈オーリック〉の事業承継を実現 10

〈オーリック〉について、自治体との連携によるSearchファンドを活用した事業承継支援を実現。地方公務員出身者がサーチャーとして携わる国内初の事例となった。

日本初のSearchファンド事業に挑戦 07

Searchファンドによる事業承継支援地域企業の事業承継問題に対して、日本初のSearchファンド事業に取り組み、事業承継を支援（承継実績は15社）。地域にサーチャー（経営者候補）を呼び込み、地域経済の活性化に貢献。

「同舟共命」の覚悟で課題解決へ 09

YMFG グロースパートナーズ始動YMFGのグループ内で分散していたコンサル、人材、DX、M&Aアドバイザー等の機能を一本化。自ら手を挙げた約120名の社員が新会社集い、課題解決のプラットフォームを目指す。

未来の起業家を育てる独自のアントレプレナー支援をつくる

山口県スタートアッププログラム「B-YOND〜ビヨンド〜」

学生向けの事業開発体験と、起業家向けアクセラレーションの2本柱で、地域発の挑戦を支援。2026年度から「B-YOND」へ名称を変更し、中学生向けの起業体験を加えるなど、対象とプログラムの両面で進化を遂げた。



地域の新たな価値を「見える化」する

地域との経済的インパクト算出モデル

YMFGの地域共創活動が地域に与える経済的な影響を算出する独自モデルを構築し、「地域との経済的インパクト」として公表。2034年度までに累計1,000億円のインパクトの創出を目指している。

20

地元食材を新たな一杯に！「ゆずきちサワー」 18

地域の生産者支援事業

〈地域商社やまぐち〉が大手食品卸売業の〈国分西日本〉と連携し、ご当地チューハイを開発。特産品の「長門ゆずきち」の新たな消費機会を創出し、県内外への販売を通じて、認知度向上と需要拡大を後押ししている。



18

社員を想う心が、会社を動かす力に 19

〈菅原汽船〉の挑戦を支える共通の価値観づくり

YMFGグロースパートナーズは、経営者の想いと社員の声をつなぐフィロソフィの策定を支援。価値観を共有する土台づくりや、人事制度の整備を通じて持続的な組織成長を後押ししている。

日本酒を次世代へつなぐ「壱岐いち」シリーズ 17

日本酒のブランド開発&販売

「女神の詩」シリーズに続き、新たに長崎の重家酒造と、手軽に楽しめる価格帯の日本酒シリーズを開発。スーパーマーケットなど新たな販売チャネルへの展開を通じて、蔵元の認知度向上と顧客接点の創出につなげている。



16

蔵元最高峰ブランド「東洋の女神」を育てる

地域特産品を生かしたブランディング

〈地域商社やまぐち〉と〈澁川酒造場〉が共同で、地元のお米と酒造技術を生かした高付加価値商品を開発。さらに「女神の詩」シリーズへと展開し、新たな販路やファンを獲得した。



11

3年間で
約1,500
件の
共創機会を創出

Shimonoseki Add-venture Summit(SAS)

2023年より、地域企業とスタートアップをつなぐ地域共創サミットを開催。参加者数は年々上昇傾向にあり、累計約3,000名が参加し、約1,500件の商談が生み出されている。



朝靄の先。
宵の残像。

島々が並ぶ風景のようなお酒を瀬戸内エリアの酒蔵と企画
売上の一部は「認定NPO法人 瀬戸内オリーブ基金」に寄付
地域商社やまぐち株式会社の「多島海」

特徴
製造・度数
内容量
価格

国産米（マスカット香の品種）を掛米に使用
中島屋酒造場（周南市）・15%（原酒）
720ml
¥2,200（税込）